



システム メッセージ ログिंगの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- システム メッセージ ログिंगの概要, 1 ページ
- システム メッセージ ログिंगのライセンス要件, 3 ページ
- システム メッセージ ログिंगの注意事項および制約事項, 3 ページ
- システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定, 3 ページ
- システム メッセージ ログिंगの設定, 4 ページ
- システム メッセージ ログिंगの設定確認, 19 ページ

システム メッセージ ログिंगの概要

システム メッセージ ログングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。 端末セッション、ログ ファイル、およびリモート システム上の syslog サーバへのログングを設定できます。

システム メッセージ ログングは RFC 3164 に準拠しています。 システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

デフォルトでは、Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチはメッセージをターミナルセッションへ出力します。

デフォルトでは、スイッチはシステム メッセージをログ ファイルに記録します。

次の表に、システムメッセージで使用されている重大度を示します。 重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

表 1: システム メッセージの重大度

レベル	説明
0: 緊急	システムが使用不可

レベル	説明
1: アラート	即時処理が必要
2: クリティカル	クリティカル状態
3: エラー	エラー状態
4: 警告	警告状態
5: 通知	正常だが注意を要する状態
6: 情報	単なる情報メッセージ
7: デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

重大度 0、1、または 2 の最新のメッセージを 100 個まで Nonvolatile RAM (NVRAM; 不揮発性 RAM) ログに記録します。NVRAM へのロギングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステムメッセージを設定できます。

syslog サーバ

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステムメッセージを記録するよう設定されたリモートシステムで稼働します。最大 8 台の syslog サーバにログを送信するように Cisco Nexus シリーズスイッチを設定できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバの同じ設定をサポートするために、Cisco Fabric Services (CFS) を使用して syslog サーバ設定を配布できます。



(注) スイッチを最初に初期化する場合、ネットワークが初期化されてからメッセージが syslog サーバに送信されます。

システムメッセージロギングのライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	システムメッセージロギングにライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。Cisco NX-OS ライセンス方式の詳細については、『 <i>Cisco NX-OS Licensing Guide</i> 』を参照してください。

システムメッセージロギングの注意事項および制約事項

システムメッセージは、デフォルトでコンソールおよびログファイルに記録されます。

システムメッセージロギングのデフォルト設定

次の表に、システムメッセージロギングパラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: デフォルトのシステムメッセージロギングパラメータ

パラメータ	デフォルト
コンソールロギング	重大度 2 でイネーブル
モニタロギング	重大度 2 でイネーブル
ログファイルロギング	重大度 5 でメッセージのロギングをイネーブル
モジュールロギング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティロギング	イネーブル
タイムスタンプ単位	秒
syslog サーバロギング	ディセーブル
syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

システムメッセージログの設定

ターミナルセッションへのシステムメッセージログの設定

コンソール、Telnet、およびセキュアシェルセッションに対する重大度によって、メッセージを記録するようスイッチを設定できます。

デフォルトでは、ターミナルセッションでログはイネーブルです。

手順の概要

1. switch# **terminal monitor**
2. switch# **configure terminal**
3. switch(config)# **logging console** [severity-level]
4. (任意) switch(config)# **no logging console** [severity-level]
5. switch(config)# **logging monitor** [severity-level]
6. (任意) switch(config)# **no logging monitor** [severity-level]
7. (任意) switch# **show logging console**
8. (任意) switch# **show logging monitor**
9. (任意) switch# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# terminal monitor	コンソールから現在の端末セッションに syslog メッセージをコピーします。
ステップ 2	switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config)# logging console [severity-level]	指定された重大度（またはそれ以上）に基づくコンソールセッションへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが大きい重大度を示します）。重大度は 0～7 の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p>
ステップ 4	switch(config)# no logging console [severity-level]	(任意) コンソールへのログギングメッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	switch(config)# logging monitor [severity-level]	<p>指定された重大度（またはそれ以上）に基づくモニタへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが大きい重大度を示します）。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p> <p>設定は Telnet および SSH セッションに適用されます。</p>
ステップ 6	switch(config)# no logging monitor [severity-level]	(任意) Telnet および SSH セッションへのメッセージのログギングをディセーブルにします。
ステップ 7	switch# show logging console	(任意) コンソール ログギング設定を表示します。
ステップ 8	switch# show logging monitor	(任意) モニタ ログギング設定を表示します。
ステップ 9	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、コンソールのロギングレベルを3に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 3
```

次に、コンソールのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: error)
```

次に、コンソールのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging console
```

次に、ターミナルセッションのロギングレベルを4に設定する例を示します。

```
switch# terminal monitor
switch# configure terminal
switch(config)# logging monitor 4
```

次に、ターミナルセッションのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: warning)
```

次に、ターミナルセッションのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging monitor
```

ファイルへのシステムメッセージロギングの設定

システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定できます。デフォルトでは、システムメッセージはファイル `log:messages` に記録されます。

手順の概要

1. `switch# configure terminal`
2. `switch(config)# logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]`
3. (任意) `switch(config)# no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]`
4. (任意) `switch# show logging info`
5. (任意) `switch# copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]</code>	システムメッセージを保存するのに使用するログファイルの名前と、記録する最小重大度を設定します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>重大度は 0 ～ 7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>ファイルサイズは 4096 ～ 10485760 バイトです。</p>
ステップ 3	<code>switch(config)# no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]</code>	<p>(任意)</p> <p>ログファイルへのロギングをディセーブルにします。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイルサイズは 4194304 です。</p>
ステップ 4	<code>switch# show logging info</code>	<p>(任意)</p> <p>ロギング設定を表示します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は 5 です。ファイルサイズは 4194304 です。</p>
ステップ 5	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	<p>(任意)</p> <p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>

次に、システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile my_log 6 size 4194304
```

次の例は、ロギング設定の表示方法を示しています（簡潔にするため、一部の出力が削除されています）。

```
switch# show logging info
Logging console:          enabled (Severity: debugging)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)
Logging linecard:        enabled (Severity: notifications)
Logging fex:             enabled (Severity: notifications)
Logging timestamp:       Seconds
Logging server:          disabled
Logging logfile:         enabled
Name - my_log: Severity - informational Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
```

```

aaa 3 3
aclmgr 3 3
afm 3 3
altos 3 3
auth 0 0
authpriv 3 3
bootvar 5 5
callhome 2 2
capability 2 2
cdp 2 2
cert_enroll 2 2
...

```

モジュールおよびファシリティメッセージのロギングの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging module** [*severity-level*]
3. switch(config)# **logging level** *facility severity-level*
4. (任意) switch(config)# **no logging module** [*severity-level*]
5. (任意) switch(config)# **no logging level** [*facility severity-level*]
6. (任意) switch# **show logging module**
7. (任意) switch# **show logging level** [*facility*]
8. (任意) switch# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging module [<i>severity-level</i>]	指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュールログメッセージをイネーブルにします。重大度は 0～7 の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • 7: デバッグ 重大度が指定されていない場合、デフォルトの5が使用されます。
ステップ 3	<code>switch(config)# logging level facility severity-level</code>	指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのロギングメッセージをイネーブルにします。重大度は0～7です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0: 緊急 • 1: アラート • 2: クリティカル • 3: エラー • 4: 警告 • 5: 通知 • 6: 情報 • 7: デバッグ 同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、all ファシリティを使用します。デフォルト値については、 show logging level コマンドを参照してください。
ステップ 4	<code>switch(config)# no logging module [severity-level]</code>	(任意) モジュール ログ メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	<code>switch(config)# no logging level [facility severity-level]</code>	(任意) 指定されたファシリティのロギング重大度をデフォルトレベルにリセットします。ファシリティおよび重大度を指定しないと、スイッチはすべてのファシリティをデフォルトレベルにリセットします。
ステップ 6	<code>switch# show logging module</code>	(任意) モジュール ロギング設定を表示します。
ステップ 7	<code>switch# show logging level [facility]</code>	(任意) ファシリティごとに、ロギングレベル設定およびシステムのデフォルトレベルを表示します。ファシリティを指定しないと、スイッチはすべてのファシリティのレベルを表示します。
ステップ 8	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、モジュールおよび特定のファシリティメッセージの重大度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module 3
switch(config)# logging level aaa 2
```

ログ タイムスタンプの設定

Cisco Nexus シリーズスイッチによって記録されるメッセージのタイムスタンプの単位を設定できます。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}**
3. (任意) switch(config)# **no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}**
4. (任意) switch# **show logging timestamp**
5. (任意) switch# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}	ログ タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。
ステップ 3	switch(config)# no logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}	(任意) ログ タイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。
ステップ 4	switch# show logging timestamp	(任意) 設定されたログ タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、メッセージのタイムスタンプ単位を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
switch(config)# exit
switch# show logging timestamp
Logging timestamp: Milliseconds
```

ACL ロギング キャッシュの設定

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging ip access-list cache entries num_entries**
3. switch(config)# **logging ip access-list cache interval seconds**
4. switch(config)# **logging ip access-list cache threshold num_packets**
5. (任意) switch(config)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging ip access-list cache entries num_entries	ソフトウェア内にキャッシュする最大ログ エントリ数を設定します。範囲は 0～1048576 エントリです。デフォルト値は 8000 エントリです。
ステップ 3	switch(config)# logging ip access-list cache interval seconds	ログの更新の間隔を秒数で設定します。この時間中エントリが非アクティブの場合、キャッシュから削除されます。指定できる範囲は 5～86400 秒です。デフォルト値は 300 秒です。
ステップ 4	switch(config)# logging ip access-list cache threshold num_packets	エントリがログに記録されるまでに一致するパケット数を設定します。範囲は 0～1000000 パケットです。デフォルト値は 0 パケットです。つまり、パケットの一致数によってロギングはトリガーされません。
ステップ 5	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、ログ エントリの最大数を 5000、間隔を 120 秒、およびしきい値を 500000 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging ip access-list cache entries 5000
switch(config)# logging ip access-list cache interval 120
switch(config)# logging ip access-list cache threshold 500000
switch(config)# copy running-config startup-config
```

インターフェイスにログインする ACL の設定

mgmt0 インターフェイスのみで ACL ログングを設定できます。

はじめる前に

- ログング用に設定された少なくとも 1 つのアクセス コントロール エントリ (ACE) で IP アクセス リストを作成します。
- ACL ログング キャッシュを設定します。
- ACL ログの一致レベルを設定します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **interface mgmt0**
3. switch(config-if)# **ip access-group name in**
4. (任意) switch(config-if)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# interface mgmt0	mgmt0 インターフェイスを指定します。
ステップ 3	switch(config-if)# ip access-group name in	指定したインターフェイスの入力トラフィックで ACL ログングをイネーブルにします。
ステップ 4	switch(config-if)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、すべての入力トラフィックに対して acl1 で指定されたログングを使用して mgmt0 インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface mgmt0
switch(config-if)# ip access-group acl1 in
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

ACL ログの一致レベルの設定

手順の概要

1. `switch# configure terminal`
2. `switch(config)# acllog match-log-level number`
3. (任意) `switch(config)# copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# acllog match-log-level number</code>	ACL ログ (acllog) で記録するエントリと一致するようにログレベルを指定します。 <i>number</i> は 0 ~ 7 までの値です。デフォルト値は 6 です。 (注) ログに入力するログメッセージでは、ACL ログファシリティ (acllog) のログレベルがとログファイルのロギング重大度は、ACL ログの一致ログレベル設定よりも大きいか、同じです。詳細については、 モジュールおよびファシリティメッセージのロギングの設定 、(8 ページ) と ファイルへのシステムメッセージロギングの設定 、(6 ページ) を参照してください。
ステップ 3	<code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リポートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

syslog サーバの設定

システムメッセージを記録する、リモートシステムを参照する syslog サーバを最大で 8 台設定できます。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name [facility facility]]]`
3. (任意) `no logging server host`
4. (任意) `show logging server`
5. (任意) `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name [facility facility]]] 例： <pre>switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf default facility local3</pre>	<p>ホストが syslog メッセージを受信するように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • host 引数は、syslog サーバホストのホスト名または IPv4 または IPv6 アドレスを示します。 • severity-level 引数は、指定したレベルに syslog サーバへのメッセージのロギングを制限します。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。表 1 : システムメッセージの重大度, (1 ページ) を参照してください。 • use vrf vrf-name キーワードと引数は、仮想ルーティングおよび転送 (VRF) 名の <i>default</i> または <i>management</i> 値を示します。特定の VRF が指定されない場合は、<i>management</i> がデフォルトです。ただし、<i>management</i> が設定されているときは、それがデフォルトであるため、show running コマンドの出力には表示されません。特定の VRF が設定されている場合、show-running コマンドの出力には、各サーバの VRF が表示されます。 (注) 現在 CFS 配信は VRF をサポートしていません。CFS 配信がイネーブルの場合、デフォルト VRF で設定されているロギングサーバは管理 VRF として配布されます。 • facility 引数は syslog ファシリティタイプを指定します。デフォルトの発信ファシリティは <i>local7</i> です。 ファシリティは、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアのコマンドリファレンスに記載されています。Nexus 5000 用の入手可能なコマンドリファレンスは http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/prod_command_reference_list.html にあります。 (注) デバッグは CLI ファシリティですが、デバッグの syslog にはサーバに送信されません。
ステップ 3	no logging server host 例： <pre>switch(config)# no logging server 172.28.254.254 5</pre>	(任意) 指定されたホストのロギングサーバを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	show logging server 例： switch# show logging server	(任意) Syslog サーバ設定を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5
use-vrf default facility local3
```

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf management facility local3
```

UNIX または Linux システムでの syslog の設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に Syslog サーバを設定できます。

```
facility.level <five tab characters> action
```

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

表 3: *syslog.conf* の Syslog フィールド

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0～local7 です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 (注) ローカルファシリティを使用する前に設定をチェックします。

フィールド	説明
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアットマーク (@) が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザリストです。アスタリスク (*) を使用するとすべてのログインユーザを指定します。

手順の概要

1. /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。
2. シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。
3. 次のコマンドを入力して、システムメッセージロギングデーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

手順の詳細

ステップ 1 /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。

```
debug.local7 /var/log/myfile.log
```

ステップ 2 シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを入力して、システムメッセージロギングデーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

Syslog サーバ設定の配布の設定

Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク内の他のスイッチへ Syslog サーバ設定を配布できます。

Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにすると、配布設定をコミットする前に Syslog サーバ設定を変更し、保留中の変更を表示できます。配布がイネーブルである限り、スイッチは Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を維持します。



(注) スイッチを再起動すると、揮発性メモリに保存されている syslog サーバ設定の変更は失われることがあります。

はじめる前に

1 つまたは複数の syslog サーバを設定しておく必要があります。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging distribute**
3. switch(config)# **logging commit**
4. switch(config)# **logging abort**
5. (任意) switch(config)# **no logging distribute**
6. (任意) switch# **show logging pending**
7. (任意) switch# **show logging pending-diff**
8. (任意) switch# **show logging internal info**
9. (任意) switch# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。デフォルトでは、配布はディセーブルです。
ステップ 3	switch(config)# logging commit	ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットします。
ステップ 4	switch(config)# logging abort	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。
ステップ 5	switch(config)# no logging distribute	(任意) CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバ設定の配布をディセーブルにします。設定変更が保留中の場合は、配布をディセーブルにできません。 logging commit および logging abort コマンドを参照してください。デフォルトでは、配布はディセーブルです。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	switch# show logging pending	(任意) Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。
ステップ 7	switch# show logging pending-diff	(任意) syslog サーバ設定の保留中の変更に対して、現在の syslog サーバ設定との違いを表示します。
ステップ 8	switch# show logging internal info	(任意) syslog サーバ配布の現在の状態と最後に実行したアクションに関する情報を表示します。
ステップ 9	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ログファイルの表示およびクリア

ログファイルおよび NVRAM のメッセージを表示したりクリアしたりできます。

手順の概要

1. switch# **show logging last number-lines**
2. switch# **show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss]**
3. switch# **show logging nvram [last number-lines]**
4. switch# **clear logging logfile**
5. switch# **clear logging nvram**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# show logging last number-lines	ログファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ~ 9999 を指定できます。
ステップ 2	switch# show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss]	入力されたスパン内にタイムスタンプがあるログファイルのメッセージを表示します。終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。month time フィールドには 3 文字を、year フィールドと day time フィールドには数値を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	switch# show logging nvram [<i>last number-lines</i>]	NVRAM のメッセージを表示します。表示される行数を制限するには、表示する最終行番号を入力できます。最終行番号には 1 ~ 100 を指定できます。
ステップ 4	switch# clear logging logfile	ログ ファイルの内容をクリアします。
ステップ 5	switch# clear logging nvram	NVRAM の記録されたメッセージをクリアします。

次に、ログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging last 40
switch# show logging logfile start-time 2007 nov 1 15:10:0
switch# show logging nvram last 10
```

次に、ログ ファイルのメッセージをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch# clear logging nvram
```

システムメッセージロギングの設定確認

システムメッセージロギングの設定情報を表示するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。
show logging info	ロギング設定を表示します。
show logging internal info	syslog 配布情報を表示します。
show logging last <i>number-lines</i>	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。
show logging level [<i>facility</i>]	ファシリティ ロギング重大度設定を表示します。
show logging logfile [<i>start-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i>] [<i>end-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i>]	ログ ファイルのメッセージを表示します。
show logging module	モジュール ロギング設定を表示します。
show logging monitor	モニタ ロギング設定を表示します。
show logging nvram [<i>last number-lines</i>]	NVRAM ログのメッセージを表示します。

コマンド	目的
show logging pending	syslog サーバの保留中の配布設定を表示します。
show logging pending-diff	syslog サーバの保留中の配布設定の違いを表示します。
show logging server	syslog サーバ設定を表示します。
show logging session	ログセッションのステータスを表示します。
show logging status	ログステータスを表示します。
show logging timestamp	ログタイムスタンプ単位設定を表示します。